

饅頭喰い人形

甘いものには目がない私ですが、先日、老舗の和菓子店に隣接する「京菓子資料館」に行ってきました。和菓子に関する資料を紹介するコーナーや糖芸菓子も興味深かったのですが、それ以上に魅了されたのは【まんじゅう喰い人形】という伏見人形を代表する人形です。福々しい顔立ちの子どもが2つに割った饅頭を両手に持った、何ともユーモラスな姿とネーミングにひかれたのですが、添えられた次のような由来を読んでさらにファンになってしまいました。

ある人がこの子どもに「お父さんとお母さん、どちらが大事か」と尋ねたところ、この子どもは即座に手に持っていた饅頭を2つに割って、「このまんじゅうの右と左、どちらが美味しいかと言っているようなものです」と問い返したというのです。一見、今にも饅頭を食べようとしている食いしん坊の子どもに見えますが、実はとっても賢い子どもなのです。

生きてると、様々な悩みや困難な出来事に直面することがあるかと思いますが、問題が複雑であればよりいっそう、答えがなかなか出なかったり、白か黒かはっきりさせら

れない場合が多いのではないのでしょうか。饅頭喰い人形の話のように、順位などつけられないそれぞれ価値ある対象が存在するように、そもそも物事は白か黒か、0か100かといった単純なものではないかもしれません。しかし、心に余裕がない状態であったりすると、例えば一度のミスがあっただけで「私はいつもダメだ。何をやってももうまくいかない」などと過剰に思ったり、また周囲の人に対しても、少ない情報から「あの人はこういう人間だ」と決めつけたりといった極端なとらえ方をしてしまう傾向が強まってしまいがちです。そんな時は、饅頭喰い人形の話の思い浮かべて、少し立ち止まって（お茶を一服したりして）みてください。冷静に見渡すと、「今回ミスをしたから残念だったけど、上手くできた部分もある。次はな所に気をつけて取り組もう」と思えたり、人の短所だけでなく長所もみえてきて、違ったとらえ方ができるかもしれません。

